

4 電気が家庭にとどくまで

電気の通り道と働く人

家庭・学校・工場などで使われる電気は、どこから送られてくるのでしょうか。また、どこでどのような作業をする人がいるのでしょうか。

作業している人には、どんな工夫や努力があるのかな？

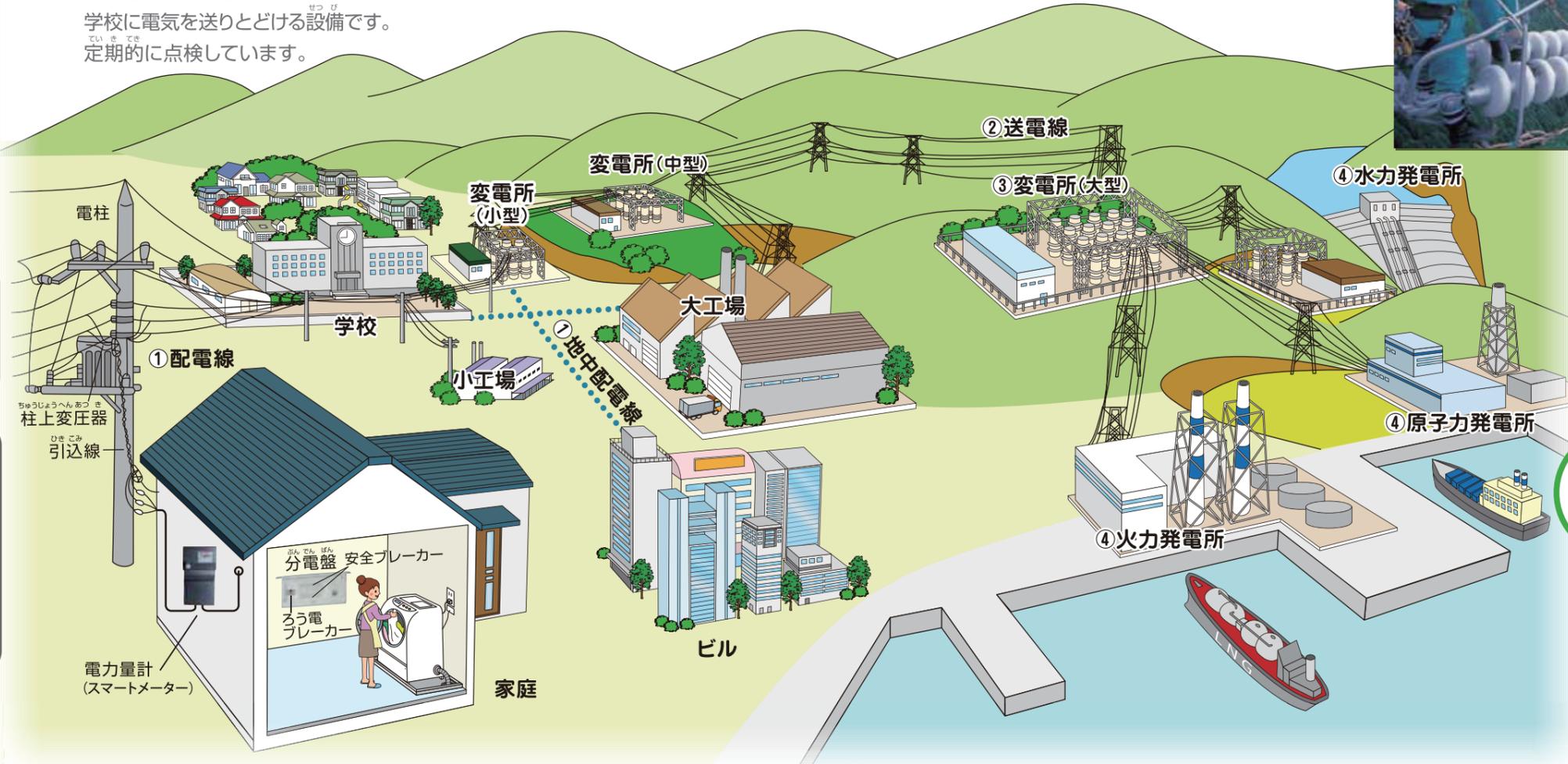


感電しないように、しっかりと安全防具をつけて仕事をしています。

くらしや産業になくてはならない電気を送りとどけるために、つねに設備を点検し、安定して電気を送れるように、たくさんの方が努力しています。

1 配電線を点検する人

配電線は、変電所からみんなの家や学校に電気を送りとどける設備です。定期的に点検しています。



2 送電線を点検する人

送電線は発電所からたくさんの電気を送る設備です。送電線の中には海底や山の上、地下を通っていくものもあります。



数十メートルもの高いところで作業をするので、風の強い日や雪の中での作業は、とくに大変です。このため体に「命づな」をつけたり、みんなで声をかけ合ったりして、安全に働けるよう気をつけています。

3 変電所を点検する人

変電所は、発電所から送られてきた電気を使いやすい電気に変えるところです。



電気がたくさん使われる平日の昼間は点検できないので、休日や夜に点検しています。

4 発電所で働く人

発電所は電気を作るところです。電気が発電されている状況をいつも管理しています。



家庭や学校で電気がいつでも使えるように保守員がパトロールしたり、定期的に機械を点検したりしています。1日24時間電気が使えるように、夜も交替で働いています。

考えてみよう

絵の中で、火力発電所や原子力発電所が海の近くにあるのはなぜだろう？

▶12ページを見て考えてね